

自然と歴史

「出雲の国風土記（出雲の郷土文化と言い伝えの記録）」という、733年にまとめられた日本最古の歴史書の1つに、大山は、神々が住む所と記されています。ここでは、山岳信仰の苦行者が禁欲生活を実践していました。8世紀初頭に、金蓮上人が地蔵菩薩の堂を建立し、大山寺を創建した後、西日本最大の仏教社会の1つに拡大しました。12世紀には基好上人が地蔵菩薩を牛馬の守り神としたため、農民たちはこの寺へ家畜を連れてくるようになりました。これにより信徒たちは互いに家畜の取引を始め、9世紀後半には日本の三大牛馬市になりました。市場は1937年に廃止されました。

大山寺へ向かう参道は昔の日本の雰囲気を感じさせます。700mの石畳の参道は、日本最長の自然石の石畳みで、昔の古い宿屋、聖地、そして日本最大の権現造りの建物である大神山神社奥宮へと通じています。晴れた日には、博労座から大山の北壁、日本海、島根半島、弓ヶ浜半島、隠岐諸島などの絶景が見渡せます。

アクティビティ

自転車で、ブナ林や日本海の雄大な景色を楽しみながら、大山の曲がりくねった道を下り、海へ行くことができます。大山の森を通して、聖地や数世紀前の地蔵を通り過ぎながら、山頂へ向かって、古い巡礼道を歩くのもいいです。大山寺の参道にはいくつかの温泉旅館があります。温泉には1年中つかることができます。冬の大山では、スノーシューやスキーなどのアクティビティが楽しめます。